

2-1 都市づくりの課題の考え方

(1) これからの都市づくりの留意点

我が国は、人口減少・少子高齢社会の到来をはじめとする社会潮流の中で経済社会構造の急激な変化への対応が求められています。都市づくりにおいても、これまでまちが抱えていた課題に加え新たな課題が多く生まれています。都市計画は、無秩序な市街化の抑制等、これまではどちらかといえば守りの視点から都市をとらえがちでしたが、今後は、従来の受け身的な都市計画の対応による解決には限界があります。

このため、様々な都市の課題を解決していくという立場から、これからの都市計画は主体的に他の政策手段と連携をとって取り組んでいく姿勢（ポジティブ・プランニング）が求められる時期に来ていると言えます。

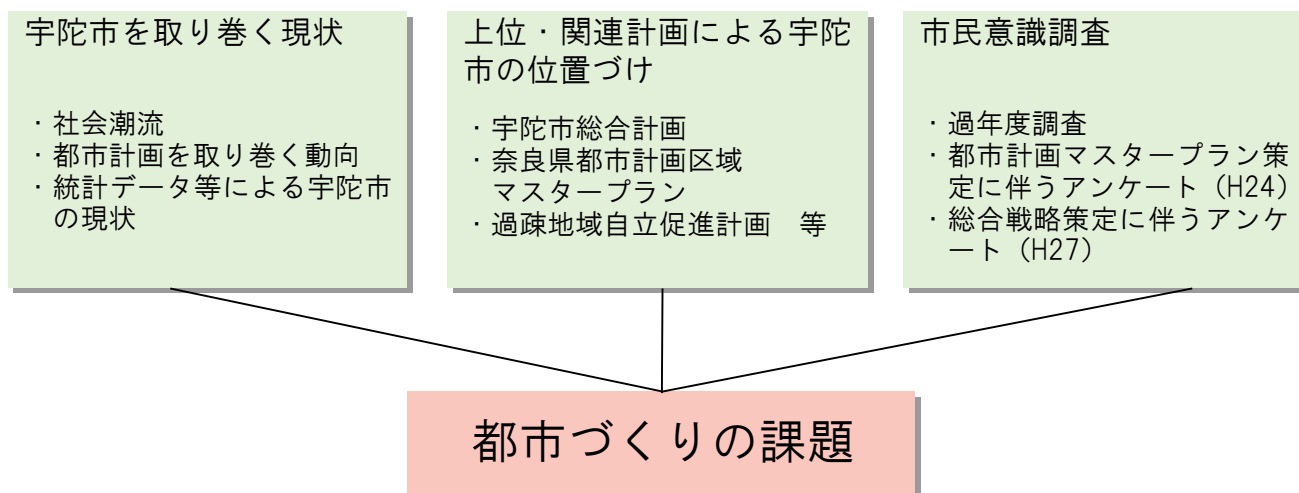
(2) 都市づくりの課題の考え方

都市づくりの課題の考え方は、多面的な観点での課題整理を行うため、都市づくりの要素別に「宇陀市を取り巻く現状」「上位・関連計画による宇陀市の位置づけ」及び「市民意識調査」による問題点や課題等を簡潔に整理した上で、都市づくりの課題を設定します。

そして、「まちづくりの理念」「まちづくりの目標」を考える際には、都市づくりの課題解消のみに終始することなく長期的な展望を持った都市づくりを検討します。

2-2 都市づくりの課題整理の流れ

社会潮流や都市計画を取り巻く動向、統計データ等から宇陀市を取り巻く現状を把握し、上位・関連計画による宇陀市の位置づけや市民意向調査結果を踏まえ、本市の都市づくりの課題を整理します。



2-3 宇陀市の都市づくりの課題

項 目	宇陀市を取り巻く現状				市民意識調査 (アンケート調査結果)	都市づくりの課題
	社会潮流	都市計画を 取り巻く動向	統計データ等による宇陀市の現状	上位関連計画による 宇陀市の将来		
1.将来都市像	■人口減少・ 少子高齢社会の 到来	■都市構造の見直し(都 市機能のコンパクト 化とネットワーク化)	・最近 10 年間の人口は減少傾向、奈良県や周辺市と比較しても減少率は高い。 ・昼夜間人口比は周辺市町村に比べて最も低く、流出超過。 ・自然増減、社会増減ともにマイナスが続くが、施策を進めることで一定の緩和が見込まれる。 ・定住促進に向けた出産・子育て環境の改善。 ・「古事記」「日本書紀」の中にも記載される、悠久の歴史あるまち。	■宇陀市総合計画 (基本理念) 1. 持続可能な環境保全のまちづくり 2. 新しい時代の協働のまちづくり 3. 地域力(宇陀力)による「安全・安心」なまちづくり 4. 歴史や文化を活かしたまちづくり (基本目標)	・子供からお年寄りや障がい者も安心して生活できる、福祉のまちを望んでいる。 ・高校生の意向では定住の意向が極めて少ない。 ・豊かな自然や自慢できる歴史が本市の魅力であるとする意見が多く、観光地として魅力を発揮できる、より良い活用が求められている。 ・どの年代も宇陀市の将来人口が減少することについて課題認識を示している。	●人口減少・少子高齢化を見据えた都市構造の見直し ●安全・安心で健やかに暮らせる都市づくり ●豊かな自然や歴史等、地域資源を活かした拠点づくり ●次世代を担う子供たちのための教育環境の充実
2.土地利用			■地球環境問題の 顕在化	■的確な社会基盤施設の 維持・更新	・本市の大部分は山林。宅地の 8 割が住宅用地で、旧町村の中心部に多く分布。 ・平成 27 年度国勢調査では人口集中地区が消滅。 ・市域面積の 5%未満である市街化区域に人口の過半数が居住。特に榛原駅周辺の人口密度が高い。 ・都市計画法第 34 条第 11 号の規定に基づき、市街化調整区域内の一定の既存集落において新たな住宅等の立地を認める区域が 6 箇所指定されている。 ・農家数・経営耕地面積・農業産出額ともに減少傾向。	1. 自然と共生した快適に暮らせるまち 2. いきいきと健やかな安らぎのあるまち 3. 安全・安心でうおのおいのある定住のまち 4. 一人ひとりが輝き個性・創造を育むまち 5. 地域資源を活かした産業・交流振興のまち 6. みんなで創る協働と参画のまち ■奈良県都市計画区域マスタープラン (都市計画区域全体の将来像) 1. 県土の都市活動の中心となる 2 大拠点(奈良、橿原)と個性豊かな主要生活拠点の形成 2. 拠点間の交流や産業活動を支える連携軸(ネットワーク)の形成 3. 観光交流拠点の形成 4. 観光交流拠点をつなぐ奈良らしい観光交流軸の形成 5. 地域の自立を図り、くらしやすい奈良を創るための機能の集積等
3.道路・交通	■安全・安心への 意識の高まり	■都市における環境負 荷の低減と自然との 共生	・都市計画道路は、幹線街路が 12 路線、区画街路が 4 路線指定されており、一部に未改良区間が存在する。 ^{※1} ・榛原地域の国道 165 号において、比較的混雑が見られる。 ・鉄道は定期利用者を含め、市内の 3 駅とも減少傾向。 ・自動車利用が多いが、路線バスや市営有償バス、過疎地有償バス、デマンド型乗合タクシーといった各種バスを運行し、市内各地域をつないでいる。	1. 県土の都市活動の中心となる 2 大拠点(奈良、橿原)と個性豊かな主要生活拠点の形成 2. 拠点間の交流や産業活動を支える連携軸(ネットワーク)の形成 3. 観光交流拠点の形成 4. 観光交流拠点をつなぐ奈良らしい観光交流軸の形成 5. 地域の自立を図り、くらしやすい奈良を創るための機能の集積等	・広域幹線道路や地域内の生活道路の改善を求める声が多い。 ・歩道整備やバリアフリー化が求められている。 ・通勤や買い物等、市外への交通の利便性の向上が求められている。	●地域公共交通の維持・再編・活性化 ●選択と集中による地域活性化のための道路網の整備 ●歩道整備・バリアフリー化の推進
4.公園・緑地	■既存ストックの 整備方策	■防災・減災を意識した 都市づくり	・都市計画公園は市内各地域に 47 箇所あり、榛原地域に多く集積している。供用率は約 62%。 ^{※1※2}		・緑地や田園風景を大切にしていきたい声が多い。	●既存施設の有効利用、維持・更新
5.その他の都市 施設	■地域特性を活かし た活力向上	■地域資源を活かした 個性を高めるまちづ くり	・市内平野部を中心として上水道が整備されており、給水人口は約 28,000 人。 ^{※2} ・下水道整備状況は整備率 92.7%、普及率 58.6%、水洗化率 86.7%。 ^{※2} ・医療・福祉施設は榛原駅周辺に集積している他、国道及び主要地方道沿道に立地している。 ・公共公益施設は大宇陀地域・菟田野地域・榛原地域に概ね分布しているが、室生地域の立地は少ない。	■宇陀市過疎地域自立促進計画 (まちづくりの基本理念) 1. 持続的な環境保全のまちづくり 2. 新しい時代の協働のまちづくり 3. 地域力(宇陀力)による「安全・安心」なまちづくり 4. 歴史や文化を活かしたまちづくり	・特に力を入れるべき施策として医療体制の充実を求める声が多い。 ・産業廃棄物の処理体制の充実は満足度が高い。 ・室生地域では必要な生活インフラ整備や地域振興策の推進が求められている。	●公共公益施設の適切な配置 ●医療体制の充実 ●室生地域における地域振興策の推進
6.市街地・産業 環境	■地方分権と協働の まちづくりの進展	■高齢社会に向けた 快適に暮らせる生活 環境の実現	・榛原駅北での 2 つの土地区画整理事業及び地区計画により良好な街並みが形成。 ・産業は工業、商業ともに低調。	4. 歴史や文化を活かしたまちづくり ■宇陀市地域公共交通網形成計画 (基本方針) 1. 「健幸都市 ウェルネスシティ宇陀市」実現を目指すまちづくりを支える地域公共交通の維持・活性化 2. 市域全体をカバーする地域公共交通ネットワークの形成 3. 地域特性に応じた多様な交通手段による持続可能な地域公共交通の再編 4. 地域住民・交通事業者・行政が一体となった地域公共交通の育成	・企業誘致のための緩和策を求める声が多い。 ・地域の活性化や店舗誘致の促進が求められている。 ・環境と経済の両立を目指したまちを求めている。	●企業立地等、産業振興のための環境整備の推進 ●環境と経済の両立に向けた市内各地域の拠点の活性化 ●産業活動を支えるネットワークの拡充
7.歴史・自然・ 観光	■既存産業の高付加 価値化と新産業の 創出	■産業構造の変化に 対応した環境整備	・国指定文化財 58、県指定文化財 42、市指定文化財 16 等、歴史資源等が数多く存在。 ^{※3} ・豊かな自然に恵まれ、市内各地域に数多くの歴史資源が存在。 ・観光客数は減少傾向。		・豊かな自然は多くの市民の中で自慢できる場所となっている。 ・市外からの観光客は美しい風景を期待している。	●宇陀市の財産である自然を活かした観光誘客の推進 ●歴史や文化を活かした特色あるまちづくりの推進 ●豊かな自然・歴史資源の継承
8.防災			・本市の想定される災害は、土砂災害・洪水・地震等。 ・市内の各地域に 30 箇所の指定緊急避難場所及び 36 箇所の指定避難所を指定。 ^{※4} ・洪水・土砂災害ハザードマップ及び地震防災マップを作成・公表済み。		・災害に備える取り組みとして、土砂災害対策、電気・水道の早期復旧、避難場所・避難路の整備が求められている。	●的確な避難所・避難路の整備 ●土砂災害対策の充実

※1 H22 国土数値情報
※2 H26 都市計画基礎調査

※3 宇陀市文化財課
※4 宇陀市地域防災計画